



2021年10月16日土 14:00-16:00

コロナ禍を乗り越える大学 教育・学校教育の挑戦

～教育学部・教育発達科学研究科ネットワーク
による試み～

コロナ禍に苦しむ大学・そして小中高の学校に対して何ができるか。大学マネジメントの視点、そして学校教育への心理支援の視点から、本研究科・学部関係者のネットワークによる、困難を乗り越える教育に必要な指針や工夫について議論します。



ぜひお気軽にお申込
み下さい！



教育学部・研究科

ホームカミングデー

学術企画（オンライン開催）

登壇者：

後藤宗理氏

（椋山女学園大学学長・研究科
同窓生（院心理20期代表））

窪田由紀氏

（九州産業大学教授・元名古屋
大学教授）

指定討論 永田 雅子

（心の発達支援研究実践センタ
ー教授）

司会 中谷 素之

（本研究科教授）

連絡先：教育学部・教
育発達科学研究科同
窓会事務局

Email: n.u.kyoikudosokai@gmail.com

<https://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~nusea/>

概要

2019年末に端を発した、2年にわたるパンデミック（感染症世界大流行）は、われわれの生活を一変させ、甚大な影響は今現在も続いています。コロナ禍において、大学や学校教育が経験した困難は大きく、わが国の学生や児童・生徒はこれまでにない危機やリスクに直面しています。大学や学校での学びや育ち、関わりを守り支えるために、われわれにはどんなことが求められ、どんな支援が可能なのでしょうか。

本企画では、本学部・本研究科に関わりが深い、教育の各方面でご活躍の先生方に、コロナ禍での大学・学校の現実と、支援の可能性と課題をご議論頂きます。コロナ禍はもとより、災害やリスクにおける大学や学校、教育の支援の可能性について考え、これからの大学や学校教育のあり方を展望します。

登壇者

◇コロナ禍における大学マネジメントの困難と挑戦

後藤宗理先生（梶山女学園大学学長・本研究科心理20期期代表）

新型コロナウイルス感染拡大というこれまでに経験したことのない事態に直面して、大学がどのように行動したか、課題は何かを明らかにしたい。学生の視点でいえば、大学という学びの場から締め出され、遠隔授業に切り替えたことによる問題がある。父母の視点からは授業料の効用についての疑問が呈された。教職員の視点からは、学生のために過重の負担にどうこたえるかが課題となった。ここでは、これらの課題を大学生の健康と学修という視点から適切に判断するためにどのように取り組んでいったかを報告したい。

◇コロナ禍における学校への心理社会的支援～心理専門職ができること・すべきこと～

窪田由紀先生（九州産業大学教授・日本心理臨床学会理事・元名古屋大学教授）

新型コロナウイルスの感染拡大の防止のため、わが国の学校は昨年3月突然、休校せざるを得なくなった。その期間は3ヶ月近く及び、登校再開後も夏休みの短縮、行事の中止などが相次ぎ、子どもたちの学校生活の様相も大きく変容した。社会全体の閉塞感や経済状況の悪化を受けて、大人自身も疲弊し余裕をなくしている中で、子どもたちはストレスを高め、種々の不適応が顕在化している。このような状況の中で私たち心理の専門職ができること、すべきこととして、主としてスクールカウンセラーの実践を通して検討したい。

◇指定討論者：永田雅子（本学心の発達支援研究実践センター教授）

◇司会：中谷素之（本研究科教授）

